

**それぞれの時代、人生の構想力が!**

●同窓会ホームページ委員会を振り返って!

昨9月1日午後4時から6時まで、浦高麗和会館にて「浦高同窓会ホームページ委員会」が開催され、私も委員の一人として参加させていただきました。会議ではホームページ運営の現状と課題、その改善策などが議論され、シンプルで扱いやすい構成に改善するとともに、各期別・地域職域・部活 OB 等の同窓会とのネットワークを構築して、有意義な情報の収集と発信を確認しました。委員4名での出発ですが、同窓会の活性化に寄与し、同窓生相互の情報ツールとしての役割をしっかりと担おうと誓いました。

さて、『浦高祭』も1週間後に迫り、校門を入ると恒例の門づくりが佳境を迎えていました。写真を撮ってきませんでしたが、間もなくホームページ等でその姿が現れることを期待しています。

それと北浦和駅コンコースに展示されている写真や写生が先輩達のものだということを藤野事務局長から伺いました。

◆北浦和駅開業80周年記念

「北浦和周辺の今と昔」開催中

北浦和駅は昭和11年9月1日、浦高の領家移転(昭和12年9月22日)に先立って開業しました。北浦和駅では、9月3日(土)まで、記念の写真展を開催しています。古い写真の多くは同窓会が提供したものです。第1回湘南戦、昭和12~18年頃に描かれた浦中生の絵、37回生(昭和60年3月卒)卒業アルバムから「僕たちの浦高通り」、駅舎から出る浦高生など展示されています。ぜひご覧ください。



〔北浦和駅コンコース〕



〔昭和12~18年頃の駅〕



\* \*

春日部にいたのではなかなか目に入らないものですが、120年の伝統が地域に貢献している姿は良いものですね。さて、昨日は二学期の始まり、いよいよそれぞれの実力を蓄える時期になりました。浦高のホームページを拝見すると、始業式で夏休みに行ったアメリカでの体験をもとに杉山剛士校長は次のように語られています。

「〔前略〕。アメリカの大学入試の最大の特徴ですが、入試に際して最も大切なのは、ペーパーテストの点なんかではなく、入学志願書に書くエッセイでした。日本で言えば原稿用紙5枚くらいのエッセイに、自分のパッションが示しているかどうか。パッションというと『情熱』という風に私は思っていましたが、それだけではとらえられない。パッションとは、その『情熱』を踏まえた『人生を構想する力』、『人生の構想力』なんですね。大学を志願する高校生たちが、自分の人生における価値や成功について真剣に考え抜く。そして高校時代の活動を踏まえ、自分の良さを生かして、大学で何を学び、大学や社会にいかに関与できるかをアピールする。その人生の構想力があるかどうかを大学入試では見抜かれるわけです。ハーバードを突破したエッセイ集というのを読みました。どれも付け焼刃ではマネのできない、それぞれの思いがストーリーとして伝わるものでした。私、これが一番浦高生に足りないところだと思いました。〔後略〕。」【浦高HP「校長講話」より】

先日、春日部市で三州製菓(株)社長・斉之平伸一様の「渋沢栄一賞受賞記念講演会『渋沢栄一翁の教えを経営に』」の中で、渋沢栄一翁の生き方を拝聴しました。渋沢翁は尊皇攘夷・倒幕派から京都に行き、徳川慶喜の幕臣に変わりヨーロッパへ、帰国後は政府の官僚に請われ、その後、民間会社を500も設立されます。しかし、77歳で全ての事業から引退されて、その後は91歳まで東京市養育院の院長を務め(院長在職は33歳から58年間)社会貢献に尽くされたとのお話しを伺いました。その渋沢翁の座右の銘の一つが「天意夕陽を重んじ、人間晩晴を貴ぶ」だったそうです。夕陽が没するときに素晴らしい輝きを放つのは天の意志であり、それと同じように人間も輝かしい晩年を輝かしい社会貢献をもって締め括りたいとの心がけですね。

先ほどの杉山校長先生のお話ではありませんが、10代には10代の「人生の構想力」が必要であり、20代、30代と仕事や家庭とともに変わっていくかもしれません。そして60代の私たちには仕事を終えて社会貢献という新たな課題を踏まえた「人生の構想力」が求められているのだろうかあ・と思いません。そんな人生の達人たちからのメッセージも同窓会のホームページには必要なのかも知れませんね。